

1983

義太夫

「菅原伝授手習鑑」とプッチーニ

義太夫協会会長 吉川英史

義太夫協会々報
第27号
昭和58年1月20日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋劇場 B2
TEL (541) 5471

従来の「教師のための義太夫節講習会」では、語りものと浄瑠璃との関係、浄瑠璃と義太夫節との関係、義太夫節の特徴という順序で話すことにしていた。しかし、先日の本牧亭では、名曲「寺子屋」が演奏されることになっていたので、「寺子屋」を中心に義太夫節の特徴を述べるというやり方に切り換えたのであった。

ところで、この「寺子屋」は「菅原伝授手習鑑」の四段目であるが、この戯曲では「親子の別れ」ということを共通のテーマとして三人が合作した。つまり、二段目では菅丞相と刈屋姫との生き別れ、三段目では白太夫と桜丸の死に別れ、四段目では小太郎の身替り

による死に別れ——という構想である。

それから十日ほどのち、東京文化会館でわたしは藤原歌劇団のプッチーニ作曲の「三部作」(「外套」)、「修道女アンジェリカ」、「ジャンニ・スキッキ」)を鑑賞した。その時わたしは「菅原」を思い出した。なぜか?

「外套」は、妻の情夫を締め殺し、妻の顔を死人の顔に押しつけて幕となる。「修道女アンジェリカ」では、未婚で子を産んだアンジェリカが修道院に入れられて七年後、遺産相続権放棄に署名させられ、自分の子はすでに病死したと聞いて、自分の手で作った薬草の毒薬で自殺する。「ジャンニ・スキッキ」は、金持ちの老人が死んでいる所から始まり、

遺言の書き換え事件を喜劇的に扱ったものである。

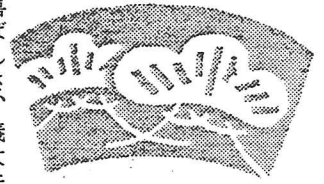
この日の解説書の中で、木村重雄氏は、この三部作の共通のテーマとして、「愛」と「欲」と「子供」をあげられている。そうもいえるだろうが、わたしはむしろ同じ解説書の中に述べられている宮沢純一氏の「どれもがちがった形で、死とかかわっている……」との考えに注目した。

それは、「菅原」が頭に浮かんだからである。「菅原」も、中心は「別れ」を共通テーマとする一種の三部作である。しかも、考えようによっては、三段目「佐太村」と四段目「寺子屋」は「死」をテーマにしたものともいえる。二段目「道明寺」は「生き別れ」で「死」がテーマではないが、端役の立田と直禰太郎が殺される。つまり、三段目にも「死」はあるにはある。(2頁下段へ)

教師のための講習会にて



吉川英史 会長
(スタジオ・サトウ 佐藤公夫氏撮影)



頌 春

義太夫節保存会会長 豊 沢 仙 広
義太夫協会副会長

明けましておめでとうございませう。昭和五十八年を
つつがなく迎えられたこの

喜ばしさ、義太夫節御後援の皆様、平和な御
家庭をどんなにか楽しくお過ごしでいらっし
やることかと、衷心よりお喜び申し上げます。

昨年、赤坂御苑の園遊会に御招待を頂き、
天皇陛下に義太夫節で人間造りをしておりま
すと申し上げましたら「よろしくしつかりや
って下さい」と御言葉を頂き、自分の仕事か
如何に大切なことかと、有難く陛下に頭を下
げた次第でございます。陛下とお話をしてい
る写真がニュースに出たと、沢山の方から喜
びの電話や葉書を頂きました。この紙面をお
借りして、皆様には有難く御礼申し上げます。

義太夫協会も五十七年は大変良い年でした。
新築の演舞場内に事務所が出来まして、家賃
も昔のままでよいと、義太夫節御支援の岡副
社長の御好意に、一同感謝感激を致しており
ます。土佐広・仙広の祝と、事務所開きの御
祝とお願ひして、河野先生より百万円の御
寄附を頂き、苦勞もなくこの様な立派な処に
事務所が出来たのです。

女性として初めての人間国宝・竹本土佐広、
勲四等瑞宝章授の豊澤仙広、六月二十九・
三十兩日は、因会の公演を大阪大島市長のお

図らいで、土佐広・仙広の祝賀公演にして頂
き、大阪三越劇場は大入満員、その賑々しさ
を東京の皆様に見て頂きたいと思ひました。
土佐広師の本蔵下邸、あんなによく言葉の語
れる太夫は他にないと大阪御連中の御言葉、
私も大阪最後の舞台と一生懸命に勤めました。
阿古屋三曲、東京の皆様は聴いて頂きたく、
テープが出来ておりますので、義太夫協会へ
お申込み下されば、いつでもお送りさせて頂
きます。

東京の祝賀公演は、九月国立劇場と決まっ
ていたのですが、私が病気になる一ヶ月間入
院、退院後も舞台出演をとめられ、十二月二
十・二十一日の本牧亭で、大入満員の皆様に
御挨拶だけさせて頂きました。しばらく休ん
でいる間に若い人達の上達は驚く程で、私が
いつ死んでも心配なしと安心いたしました。
義太夫がだんだん解ってきて、最後まで面白
く聴きました、とのお客様の言葉を、どんな
に嬉しく聞きましたか……出演は出来なく
とも若い人達の指導とお世話に張り切ってお
りますから、どうか御安心下さいませ。
毎月二十日・二十一日の本牧亭公演をお忘
れなく御後援をお願い申し上げて、私の御挨拶
にさせて頂きます。

昭和五十八年 初春

(1頁下段より)

そこまで、「死を扱った三部作」といえば、
こじつけになるかも知れない。しかし、わた
しは、ひょっとして、ブッチーニは日本の古
典の名作「菅原」の「別れをテーマにした三
部作」(?)、しかも「死」が強くかわわ
っている二つ、(あるいは三つ)の場面からヒ
ントを得たのではあるまいか? —と考え始
めた。何しろ、ブッチーニは、「蝶々夫人」
という歌劇を作曲した人であり、その中に「越
後獅子」「宮さん宮さん」その他の日本旋律
を利用した作曲家である。日本の芸能につい
ての多少の情報は受けることができた人で、
わたしはこの問題について、宮沢純一氏に尋
ねてみたが、氏の意見は大体こうであった。

ブッチーニは当時の駐伊公使夫人(大山大
人)と知り合っていた。夫人は箏曲の演奏
のできた人で、この人から日本音楽につい
て聞いたであろう。また、「メロディ ジ
ャポネ(日本旋律)」という楽譜は見えて
いるであろう。しかし、特に深い関心を日本
に寄せたとは思えない。「菅原」に似た点
がありとすれば、偶然の一致と思う。

わたしは少しがっかりした。しかし、今も
この「菅原」と「三部作」の共通性にこだわ
っているのである。



世に稀なる方

— 豊竹団司師 —

松原 学

この秋、京都の宿で初めて豊竹団司師匠にお会いし、そのやさしい顔立ちと美声に接し、この方が当年九十一歳の御婦人かと驚ろかされました。又、お口の中を見せていただいで一層驚嘆しました。大臼歯まで自分の歯で、歯肉も健康色で、三十五年歯科医業にたずさわり、大平前総理から名もなき市井の方々、欧米人は勿論、南方のカナカ族の人々と、あらゆる人の歯牙にお目にかかりましたが、自分の歯でこれだけ咀嚼力のある方にお目にかかったのは初めてだからです。お聞きした所、菜食だとのこと、その他生活態度等は、親友高野俊雄さんがよく御存知と思いますが、私の感じでは、一芸に打込み、並ならぬ精神の打込み方も身体に大きな影響をもたらすということです。よく咬めることが、脳細胞に役立っている実証の一つと判断しました。ますます御健康で、人々の一層の範に今後もなっていたいただきたい思いをこめてしたためました。

(医学博士)

第12回 心身障害児のための特別公演

収支決算報告

年末のチャリティー公演も回を重ね十二回、おかげさまですっかり定着し、今回も二十万円をNHK厚生文化事業団に托すことができました。両日とも、とりわけ二日目は大入満員で、座る所がないとお客様の声に、何度

＜収入の部＞	
会場募金箱 (20・21日)	58,525 円
当日入場料	19,850 円
出演者扱切符代	37,400 円
出演者一同	28,000 円
協会扱御寄附	255,000 円
＜内 訳＞	
新橋組合様	70,000 円
新小松従業員御一同様	31,000 円
松前 重義様	20,000 円
内野 アキコ様	13,000 円
坂本 朝一様	13,000 円
松尾 武市様	13,000 円
池田 弘一様	10,000 円
石塚 晃玉様	10,000 円
菅 邦夫様	10,000 円
中村 初波奈様	10,000 円
宮脇 雪むら様	10,000 円
横山 敏雄様	10,000 円
和田 博様	10,000 円
竹本 扇太夫様	5,000 円
竹本素八を聴く会様	5,000 円
近松従業員御一同様	5,000 円
寺中 作雄様	5,000 円
島 春栄様	3,000 円
鶴澤 重造様	2,000 円
収入合計	398,775 円

＜支出の部＞	
心身障害児のための寄附金	200,000 円
本牧亭席料他諸掛	65,000 円
通信費	35,640 円
交通費	5,910 円
床世話・荷上他	36,000 円
総稽古諸経費	7,100 円
謝礼・祝儀他	34,500 円
諸雑費	14,625 円
支出合計	398,775 円
差 引 残	0 円

もお膝おくりをお願いした程でした。総掛合のため、人間国宝・土佐広師も、由良之介、師直と何役もひきうけ大忙し。手術後の仙広副会長、膝の故障の駒登久師は欠演でしたが、その分若手が熱意でカバー致しました。これも皆様の御声援の賜と厚くお礼申し上げます。尚、今回もプログラム、切符等の印刷一切は、協会相談役の高野俊雄氏がおひきうけ下さいました。どうも有難うございました。

仙広師、五十万円寄附

勲四等瑞宝章授の内祝にと、豊沢仙広副会長は、別途五十万円を、心身障害児のために寄附されました。「人のために何かしてあげるのではない、徳を積ませて頂くのです」仙広師の言葉です。

昔の寄席の内外噺

相談役 豊 沢 猿三郎



新年、明けましておめでとうございます。此の度は断片的なお噺を並べて見ましよう。

五リンと申すお仕事は太夫三味線を七組一座として席亭へ渡し、お客様一人に付き五厘を徴収します。お客が三百人とすると一円五十銭。自己の持席が十五軒とすれば、一晚二十二円五十銭。一ヶ月では六百七十五円。現在の金額にすれば四百万円位の収入でしょう。

第27号
1983. 1. 20
太夫協会々報
ですから宮田の親方(春駒氏の父)の兵子帯に巻いて居た純金の鎖は、秋田犬を繋いでも大丈夫と言われた程太い物でした。真打さんの中には、人気の悪い太夫でお客を一束(百人)よべない人があります。たとえばお客が九十人としますと、木戸を三十銭として十分三円を真打が木戸へ払い客数を百人とします。これを木戸を積むと言いますが、一ヶ月続ければ九十円の自腹です。この時代はお米が一俵六円四十銭。現在コシヒカリ一俵は三万八千八百円故、毎月五十万近く出してはとてたまりません。看板を降ろして他の座のスケバ(切三)に出して貰いますが、真打さんによってはあの人を私の座に入れないで下さいと総すかみを喰います。そうなたら稽古屋専門になるより仕方ありません。次に給料の事を書きましよう。序口弾きの

十三歳の私や猿太郎(岡太夫)君は二十銭の立てんば(お客の多少ナシ)の均一です。それでも電車が往復十三銭故、七銭残ります。人形町の初音の大碗汁粉が三銭、鈴本の前に夜明しの牛めし屋台のカメチャブ(お客が噛み切れないで捨てる肉を洋犬が朝まで待っているから)が四銭でした。宮松さんの時は電車賃が要りません故時折行きました。

初音と言えば猿太郎君と私と汁粉の食べ競争をしましたところ、私は九杯、敵は九杯半で勝負決。私には六十銭なぞ大金が有りません。仕方なく帳場格子の向うで笑って見て居たおかみさんに二、三日待って下さいと頼みました所「いいんですよ、そのかわりよそでこんな事するんじゃないよ」と言って団子を沢山竹の皮に包んで二人に持たしてくれました。私の師匠も大層な甘好きで、初音の甘味の強いのが好きでいつも私がお供をして行きました。大正十一年に初音のおかみさんが師匠に、私を娘の聲にと話がありました。実は前年小清師匠が、小伝馬町の足袋問屋植野様を仲立てて、私を養子にそして清八の名を襲いでとの話があり、師匠は植野様に「あれは親の才造の名を襲がならんで人様の名はつけません。おぼはん(小清氏)が氣い

悪うせんようアンジウ言うてお断り下さい」と言う訳がありましたので、初音のおかみさんにその事を話して初音の縁談は中止にしました。もし話が成立していれば今頃私は、帳場格子の向うに徳利を置いてチビチビやって、初音の狐でなくトラになって居たでしょう。話が協道へそれました。

立てんばから二厘、五厘、八厘、一銭となるとお客百人で一円という給金です。師匠に御礼報告と宮松さんの大親方に報告致しますと親方が「お目出度う。女のケツなんか打放すんだぞ」どうも一言多い様です。あとで大おかみさんが「親方の言う事気にするんじゃないよ。娘さん達に騒がれるのは結構ですよ」と嬉しい事を言ってくれました。宮田の親方は席が閉ねると上り高を四分六に分けて、席が四分、楽屋が六分。朝太夫、松太郎師の一座と、小清師の座に限り七分三分です。それを受取って帰り人頭に割って一円札四つ折の大きさに包み、上に銘々の名を大きく書いて、翌夜本人に渡します。これを「ワリ」と申します。私等若い者は「チリ」とも申します。吹けば飛ぶ様な少額だからです。一方修業面で固くなるのは年二回の宮松さんの舞台を昼間拜借して腕試しをする事です。大正の初めから大正七年迄続きました。年齢は十三歳から十八歳の者許りです。松五郎、松糸、松若(松市郎)若雄(伊達威)若三郎(衆造)猿喜知(猿平)猿治(猿三郎)猿重郎、猿之丞、猿糸郎(隆平)仲二郎、仲三郎、仲五郎、重二郎(東太夫)富松(新造)団伊

三(伊三郎)一造、文吉、語作、紋三郎の二十名でした。芳太郎(二代目松太郎)さんは体が弱いという事で、養父松太郎師のお話でこの組へは入りませんでした。十人づつが舞台へ並び彦山の七段目瓢箪棚の香炉のメリヤスを一分間三回の速度で弾くのです。撥を落した者は舞台前の板の間へ降りて続けるのです。審査は二階の正面棧敷に松太郎、勝鳳、清七、団平(三代目)富助、重太郎の各師匠の恐ろしいお顔が並び、階下の平場には宮松の大親方、若親方、宮田の親方が眼を光らせて居ます。最初の十人の最後迄弾続けた者と二度目の同じく残った者と二人が、三味線の糸を二箱づつ頂きます。いつも若三郎と猿太郎の両君が表彰されました。残念乍ら、私はいつも板の間へ座る組でした。その日に御定連の江沢様が薬師様へお詣りに見え、宮松亭に昼間三味線の音が聞えるので若おかみさんに事情を聞き、大層感心なさって、菊寿司から生寿司二盤台、のり巻を三盤台お届け下さいました。生寿司はお師匠方、のり巻は少年達で、生寿司はまだ修業中の者は早いという御定連様らしい敵しいお心遣いでございました。

食べ物のついでに宮松亭さんの近所に保米楼と言う洋食屋さんが有りました。洋食弁当が有名で、横十センチ、縦十五センチ位の瀬戸物の三重で、下が御飯中が大きなピフテキ上がカツとオムレツで二十五銭でした。今なら二千円でも出来ないでしょう。幹部の人がよく楽屋へ出前させて食べて居られました。

私も早く偉くなって楽屋で食べられるようになりたいなと思っていました。二十四歳の時関東の大震災で宮松様が焼けてしまいましたので、遂に私の洋食弁当の望みも一期の夢と成りにけり、ツトン、ツトンツトンで有りました。ではこのへんで又の機会に何か書かして戴きましょう。

大阪女流養太夫を励ます会

十月九日、養太夫節発祥の地、大阪に大阪女流養太夫を励ます会が誕生しました。

— 尊い伝統と得難い浄曲の保全、興隆のため、養太夫節を愛好する者一人一人が立ち上るときは、今を措いてはありませぬ。

たとえ微力ではあっても、公的機関による上からの保護ではなく、養太夫節を本当に愛好する者同志が互いに連絡をとりあつて、斯道の護持、継承に資するため(設立趣意書より抜粋) — 設立されたものです。

発起人は、赤井常隆・赤松栄一・岩見喜一郎
川向勝祥・木本勇二・吉比正作・斉藤義男
高橋正毅・西山清一・布谷伊久・平野林平
藤平一男 以上十二氏
年会費 三千元(一口)以上

大阪女流養太夫を励ます会事務局

〒530 大阪市北区西天満二一六一八

堂ビル七二〇

高橋法律事務所内

〇六(三三五)一〇八一

歌舞伎の養太夫 竹本連中の
後継者養成事業

竹本講習について(九)

今春、第六期生の笠羽章彦・高橋尚夫・高橋幹明(以上太夫)と成田宏(三味線)の四君が卒業の予定です。芸名は未定ですが、この人達が加わると、竹本講習出身者の合計が十七名となり、既存の太夫・三味線の合計が十七名ですので同数ということになります。

昭和五十年発足時の平均年齢は六十六歳でそのままだと七十三歳というところが、講習生が加わったおかげで、五十歳を切ることにになりました。本年一月の歌舞伎座正月興行は象徴的で、太夫に於いては竹本太夫さんが九日に病氣欠演(代役は喜太夫・養太夫両君)した為、既存の太夫は零となってしまいました。三味線はともかく出演者の大部分が講習出身者で、全く七年前には想像し得なかったことが現出されています。竹本講習の威力・効果を目の当たりに見る思いがします。

伝言板

お年始状を沢山有難うございました。昨年は、私方に不幸がございましたのでお年始状は差し控えさせて頂きました。どうか悪しからず御了承の程、お願い致します。
常任相談役 河野国声

プロの自覚、名前に責任

常務理事 竹本彌乃太夫

義太夫協会の事業の一端としての、義太夫教室が再興されて早や十年、此の間教室からも幾多の新人がプロとして誕生した。そして毎年十二月の祖先祭には、法要のあと、その年の新人を紹介することが恒例になっている。

御先祖竹本義太夫の法要であるから、嘗ては正会員の中でも年輩の方が多かったが、近年若い方が非常に多くなったことは、世の移り変りというより、協会に若手プロが増えたということ、本牧亭の毎月の華やかさと同じく、大変喜ばしいことと思う。併し、昨年の祖先祭には新人の紹介がなかった。寧ろ幸いで、この辺で義太夫協会も、新人の紹介を検討する時機に來ているのではなからうか。

最近の若者は、マナーが悪いとか、芸に対する真剣味が足りないとか、生意気だとか、いろいろ取沙汰される。しかし斯うした傾向はいつの時代でも、その時代々々で若者が言われ続けて來て、その若者が年をとって、次の若者に同じようなことの繰返しをしているのであるから、それほど問題とも思わないが、礼節を重んじるといったような、いわば修身的なことは、戦争を境にして大きく変わった。修身と言うと、ただちにアレルギー反応を起す人がいるけれど、これは社会生活

を営む上には、最低の約束ごとである。特に義太夫節という立派な古典芸術に携っている者には、それなりにきちっとしたしつけが大事である。戦後はそのしつけの断絶があったとよくいわれる。マナーの悪さが、貿易摩擦を引起すことにもなった。義太夫協会として、新人の加入は大いに結構なことであるが、誰でもすぐこれを認めることは考えものである。或程度のプロとしての教養、みだしなみ、礼儀、作法、技芸、将来性等といったものを、何んらかの形でチェックすることが、協会内部組織をより充実し、確固たる立派なものにすることにつながるものであると思う。

例えば舞踊家は、新しい内弟子に対して、最少限何番かの踊りが出来なければプロにさせない、当然名前もやらない。アマでも名取りになるのに数年もかかる。そして多額の金がかかる。今は内弟子でも手許にお手伝さんのつもりで抱えておくわけにはいかないから、自活の道を選ばしている。だから勤めながらの勉強である。勿論どんな端役でも仕事がある、生活力のある師匠と弟子もいるだろうが、仲々険わしい社会である。義太夫のプロも同じ様なケースだが、違うところは、プロになりますとすぐその師匠は名前を与

えることである。テンもツンも弾けなくとも、アーもウーも語れなくてもである。善意に解釈して、その師匠が、此れからの弟子の技芸に対して、又全てのしつけ等に対して、責任を持つからこそ、自分の名前の一字をやったり、名付親にもなるのであろう。只々、弟子が出来た、ウハウハ喜ぶだけでは無責任にすぎると。本来ならば、自他とも認める技倆其他を具えてこそ初めて名を与えてもよいので、それ迄は本名だつて差支えない。ともかく、名前がもつと重要な意味を持つことを、本人の自覚と相俟つてその師匠も認識を持つて貰いたい。(閑話休題)

協会では既に研究室というその名ばかりの無活動な部門がある。今度此れを強化して、新人の為の育成機関として充実させたい。新人の加入に対する審査部門の設置に加えて、受入態勢に万全を期することも、今後の協会の課題である。そして名実ともに素晴らしい若手の抬頭を期待している。

新春懇親会御案内

* 一月二十九日(土)午後五時より

* 沢田本店(浅草公会堂西側二分)

* 会費 五、〇〇〇円

何か一品、景品をお持ち下さい。

何が当るかお楽しみ!

今年初の楽しい顔合せ、どうぞ皆様
お誘い合せ御参加下さい。

協会の動き

昭和57年10月より
昭和58年1月まで

(昭和五十七年)

10月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭
10月23日 女流義太夫若手自主公演 於豊島区民センター

11月13日 義太夫教室創立三十五周年記念・
新旧同人合同研究発表会 於浅草公会堂第二集會室

11月20日 教師のための義太夫節研修会
於浅草公会堂第二集會室

吉川会長の解説、重造・重輝の三
味線解説、土佐広・三生の寺子屋、
乙女文楽による鳴門(桐竹智恵子
師特別出演、ひとみ座) 於本牧亭



乙女文楽“鳴門” 桐竹智恵子師(右)
(スタジオ・サトー 佐藤公夫氏撮影)

11月21日 義太夫協会公演会 於本牧亭

11月24日 定例理事会 於新小松

12月1日 公演部会 於事務局

12月7日 邦楽連合会 於長唄協会

12月12日 忠臣蔵総稽古 於三生宅

12月18日 忠臣蔵総稽古 於新小松

12月20日 第十二回心身障害児のための特別
公演(3頁参照) 於本牧亭

12月21日 昭和五十七年お名残公演 前日同
様、仮名手本忠臣蔵を総掛合にて
通し演奏した。 於本牧亭

12月26日 祖先祭 高齡の参加者も多いこと
故、年末の祖先祭は今回限りとな
った。五十八年度は、試験的に八
月最終日曜日に開催することが決
定した。 於回向院

12月27日 仕事おさめ

1月6日 仕事はじめ

1月11日 常務理事会 於事務局

1月13日 常磐津節保存会・無形文化財指定
記念パーティーに出席 於資生堂

1月20日 義太夫協会会報 第二十七号発行

(昭和五十八年)

豊沢仙広師 おめでとうございます

昭和五十七年度大阪市民表彰受く

大手術に耐え十月十四日に元気に退院
された豊沢仙広師(義太夫節保存会会長、
義太夫協会副会長)は、十一月二十五日
大阪市より表彰されました。吉比正作人
形浄瑠璃因協会副会長、桂小文枝上方落
語協会副会長らと共に、文化功勞の面
での市民表彰を受けたものです。

義太夫節保存会

第二回 伝承者研修発表会

*二月二十日(日)二十一日(月)

*上野広小路本牧亭 *五時半開演

保存会が発足して約三年、義太夫協会と協
力して行っております後継者育成事業の成果
を御声援・御高批下さいますよう――
保存会会員が指導出演いたします。

竹本素八師 おめでとうございます

芸団協第九回芸能功勞賞内定

本牧亭への連続出演、義太夫教室講師、
竹本講習の講師等々、精力的な活躍に対
して功勞賞がおくられることになりました。
表彰式は三月。五月頃にお祝の会を
開く予定です。(今回の内祝に、素八師
より細三味線一丁が寄贈されました)

'83 都民芸術フェスティバル

第十三回邦楽演奏会

* 昭和五十八年三月六日(日)
* 於第一生命ホール

主催 邦楽連合会 (義太夫協会・清元協会・古曲会・新内協会)
後援 東京都 (常磐津協会・長唄協会・日本三曲協会)

第一部(十二時半開演)

河東 恋桜反魂香 山彦節子/貞子
新内 蘭蝶 富士松鶴千代/新内仲三郎

義太夫 天網島時雨炬燵 小春 竹本綾之助
紙屋内の段 お末 竹本 素丸

三 曲尾上の松 宮城喜代子/数江
清 元吉原雀 清元寿美太夫/一寿郎

常磐津宗清 常磐津文字太夫/菊寿郎
長唄道成寺 杵屋喜三郎/勘五郎

(終演予定 四時)
お問合せ・お申込みは事務局まで

第二部(四時半開演)

清 元 権九郎 清元登志男太夫/松之助
宮 園 桂川 宮園千佳/千愛

義太夫 菅原伝授手習鑑 千代 竹本駒之助
寺子屋の段 御台 竹本 越孝
若君 竹本 駒龍
戸浪 竹本 朝重

新内 明烏(上) 富士松菊/新内勝一朗
常磐津 山姥 常磐津清勢太夫/文字兵衛

長唄 二人婉久 今藤長之/長十郎
三 曲 根曳の松 中能島欣一/慶子

(終演予定 八時)

芸能人年金に保養所

遂に年金基金も十七億円を突破。着実に伸びている芸能人年金の加入者・受給者は、全国二十二ヶ所、海外四ヶ所の別荘を、一泊わずか千円で利用できることになりました。未加入の方、若い方ほど年金は大きくなります。一日も早い御加入をおすすめします。

〆寄 贈

豊沢 時若様 上り糸 多数
竹本 素八様 三味線(細) 一丁
鶴沢 英治様 三味線胴 一ヶ

〆改 名

豊沢仙之助、五十八年より仙凰(せんほう)となります。よろしくお願ひ申し上げます。

〆会員名簿 まもなく完成

相談役、高野俊雄氏御寄贈による会員名簿は、初校が終了しました。まもなくお届けできると思っておりますので、新入会員御紹介、住所変更等は省略させて頂きました。

〆編集後記

明けましておめでとうございませう。華やかな演舞場初芝居の音が流れてくる新事務所ですが、会報、名簿の校正、役員会、源泉徴収票等々、何やらせわしなく、年の瀬の延長のような毎日、猪の年が始まりました。今年、九月二十九日、国立劇場での大会という大事業を控えております。どうぞこの一年、よろしくお願ひ申し上げます。